

自分の体、自分の思う体

旭川市立永山南中学校 二年 長尾 果乃子

自分がこうでありたいと思う体と、自分の体が違う時、人は努力をします。例えば、足を細くするためにランニングを始めたり、筋肉をつけるためにジムに通ったり。でも、もしもそれが、努力のしようがない場合はどうしたらいいのでしょうか。例えば、女の体が嫌だとか、周りに女として見られるのが嫌だとか。

自分は、自分の性別に悩んでいます。いわゆる、LGBTのTの人です。理解が広まりつつあるものの、まだまだ生きにくい世の中で少しの理不尽に耐え忍びながら生きています。自分は、性同一性障害とXジェンダーの間にいます。Xジェンダーには、両性といい、女の部分も男の部分もある人、中性といい、女と男の中間にいる人、無性といい、性別の意識がない人の三種類の人があります。自分は、性同一性障害と中性の真ん中です。

どっちかじゃないの、と言われることもありますが、自分でもわかっていないのです。中性というより男らしくありたい、でもこの体を見て吐きたくなくなる程でもない、という説明し難い位置です。制服は学ランを着たい。でもアンケート用紙で男に丸を付けるのは何か違う。周りからは男に見られたいけど、全てが全て男になりたいわけじゃない。けれど今は、そんな心をぐっと押しつぶして、女として生きています。

この体を見て吐きたくはなりません。でも、ふと鏡を見て、胸がなくなればいいのに、と思います。今はナベシャツというものを使って、胸をつぶしています。この前は、腰用のコルセットでつぶしていました。胸をつぶして、男物の服を着て外を歩くと、少し息がしにくいけど気持ちになります。今の自分が正しいんだと思えます。生きやすく生きるための手段として、胸をつぶしています。自分は、胸をなくす手術をしたいと思っています。ピアスは怖いと思いますが、この手術は怖いと思っています。整形手術と同じだと思います。なりたい自分になるために、自分が自分らしく生きるために手術をしたいのです。胸がなくなればいいのに。そう思わずに生きてみたいです。

理解されないことだってあります。理解されないことの方が多いです。「自分って

こういうのなんだよね」と言った時、八割の人は、理解できないか、嫌な顔をします。一割の人は、あ、そうなの、と理解してくれます。一割の人は、その考えは間違っていない、と肯定してくれます。肯定してくれた人の一人が、クラスメートの女の子です。その子はこう言ってくれました。

「そうなんだ、アリだと思う。だって人によるもんね、男か女かの二択じゃ決められないよね。大丈夫、私はそういうの全然いいと思ってるよ。」

今までで一番嬉しい反応でした。当事者が周りにいない中で、大丈夫だ、独りじゃないんだと思えました。学ランを着たいと言った時に、似合うと思うと的外れなフォローをしてきた先生よりも、胸をつぶしていることに対して、なんでと言ってきた友人よりも、わかってるだけの彼女の言葉が嬉しかったです。

自分の心と体がちぐはぐなだけで生きにくいけれども、そんな世の中でこの体は必死に生きている。心を何度殺されようと、体が生きる限り、死ぬことは許されない。これって理不尽じゃなくて救いなんじゃないか。そんなことを思いながら、あまり好きじゃない体と生きています。努力のしようはないけれど、手立てならきつと探せばある。そんな一握りの希望とこの体で、少しの理不尽に耐えながら、生きにくいこの世界で生きています。明日が来るから生きようなんて言わずに、明日をどう生きるか考えて。

今は、まだ、この体で生きていきます。